

# 琉球大学学術リポジトリ

## 豊かな衣服生活のための既成品の選び方

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子, Toguchi. Fumiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19817">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19817</a>

# 豊かな衣服生活のための 既成品の選び方

今や既成品時代と申しましょうか、年々市の店頭には既成品が山と積れて参ります。特に11月から旧正月前までの店先には高級品から一般品までの品々が晴着用として、積重ねられて行くばかりです。

この既成品も昨年の始め頃から日本本土でもプレタ・ポルテ (Preta Porter) と呼ばれて、工業的に生産されて来ております。プレタ・ポルテという言葉の発祥地はフランスですが、言葉を直訳しますと着るために用意されたということで、既成服のことです。この既成服には注文服と同じ様に高級と云う意味が含まれているので、日本では高級既成服のことを呼んでおります。既成服もフランスは超高級なものをブテイクと呼び、高級的なものをプレタ・ポルテと、一般的なものをコンフェクションと三つの段階に分けて呼んでいます。三種を説明しますと：

## 1、ブテイク

まったくの手仕事でその割合は手仕事80%、ミシン (機械) 20%で、1デザインによる着数もせいぜい5~6着で素材、色柄は1点1着といったものが多くなっています。

## 2、プレタ・ポルテ

仕事の割合は手仕事50、ミシン50という割合になります。要所要所を手仕事でいうことになります。1デザインで数10着、数百着が作られます。

## 3、コンフェクション

大部分をミシンで行います。ミシンが80で手仕事が20の割合でブテイクとは逆になるわけで1つのデザインで数千~数万着に及ぶものが作られます。

沖縄でもこのプレタ・ポルテが入りまして某デパートで日本の著名なデザイナーによるオリジナル製品が陳列され、一般の人々の関心が寄せられました。今後沖縄でもプレタ・ポルテとして的高级既成服が多くな

ることでしょう。4~5年前から利用者の多いイージーオーダーは各デパートや洋装店等で人気を呼んでおりますのも、既成服の一種ですこれは日本独特なものですが、オーダーと呼ばれていますが既成服と同じで、サイズを各個人に合わせて作る点やデザインの豊富さ、短時間で出来、価格も安い点で利用者に人気があります。一方店側としての欠点は既成服と仕立方は同じ程度ですが、短期間におこる直し等が多く人手や時間が多くかゝる点で今後のイージーオーダーのあり方にも問題がある様です。既成品と云えば縫製技術面がずいぶん分かれていた点ですが、今後の既成服の縫製技術は今までの競争激しい時間一費用と云う悪循環をなくし縫製企業のシンクロ化が盛んに考えられる様になり、手仕事が完全な分業になり次の工程への流れ作業の効率向上が研究されますので、縫製技術の画一性と大量生産によるコスト下げになってよい製品が出されて行きます。沖縄の市状を見ましても、日本本土より入る既成服の登場にならぬ、デザイン、技術、材質面等にも大いに影響を受けて、一般品やプレタ・ポルテ式のものが多くなりましたが、まだまだ縫製技術面ではもっと研究する点があると思います。日本既成品よりは安価である点は利用度は高いですがもう少し材質と色彩の点の範囲が広くなればもっと利用範囲も広がること、思います。今市場の中で調べた所一枚の着物を利用しますのかゝる費用等をくらべますと：

ネルの着物を作るのかゝる費用として

材料 1ヤード35㊦×5ヤード+80㊦の縫賃では2 \$55㊦かゝり一週間の日数がかゝる。自分仕立の時は材料費だけに日数がかゝるだけですからお仕立の出来るゆとりの方は自分で仕立てた方がきれいに気持ちよく着ることが出来ます。

それにくらべお仕立にそれ程気をかけない時でしたら1着で1,40\$で品数、サイズもいろいろあり価格も材料費並ですぐ着られる点は便利だと

思います。既成品が材料費並で求められる点を例に上げますと：

着物（ネル仕立）材料費1ヤード 40¢のもの

1着仕立上り 2.00\$

沖縄織の毛糸織 1反6.50\$のもの

仕立上り 6.50\$

洋服でも 材料費1ヤード 2.50\$以上で2ヤード

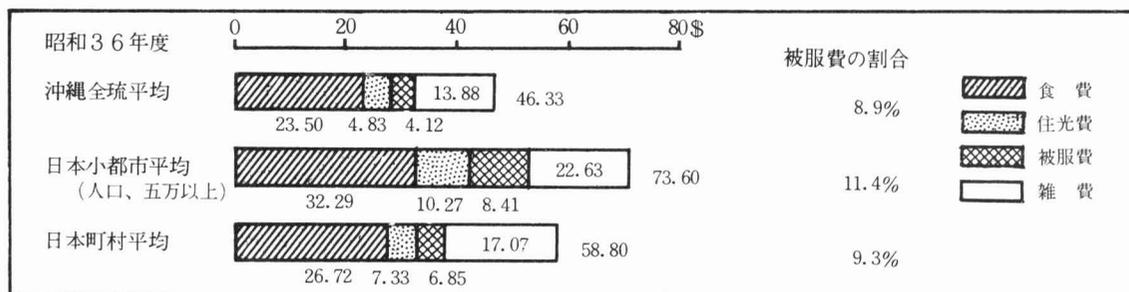
3分以上はかゝり 縫賃 300\$以上はするので

しめて（芯地、裏地共）最低で 11.00\$はかゝり

ます。既成服で日本ものは、10\$から30\$位まで

あり材質、色柄共巾広く揃っておりますし、沖縄

製品でも8\$から20\$位まで揃えてありますので、着用目的によっては利用出来ることとせう。沖縄製品は材料費だけですぐ着用出来る点は経済的に魅力のあるものですが、縫製技術がもつと考えられたらどんなにかいゝ、だろうと思います。最後に私達の衣生活状態を統計表からのぞいて見ますと、外国、日本の被服の消費率は高い所で26.4%で隣の台湾が8.6%、日本が11.5%を示めています。日本の昭和36年度の全町村平均、小都市平均を沖縄と比べますと、1か月間の1世帯当り総支出額は次の表の通りです。



月別に61年度を見ますと被服費は2月、12月は13%、16%と示め、那覇市では12月で20%もの被服費を出しております。沖縄に輸入されております衣生活に関するものを見ますと：

原材料（織物繊維、綿及綿花）273,700\$

原料品製品（織物、織糸及糸、毛糸、織物類、毛織物、寝具）19,261.219\$

雑製品（ハンドバック、衣類、古着、洋服類、和服及附属品、履物、履物の附属品、靴、ボタン及飾ボタン、かさ、つえ、装飾品及扇類）12,905.201\$で各グループの約3分の1を示めているのには驚きます、消費者の被服費は低い割に原材料、製品の輸入高は多いのですから、これからの衣生活はよい品を安価に求める様に、計画を立て、利用したものだと思います。既成服を上手に利用するには：

1 衣生活の計画を立て、買物をする事

- 必ず着用して体を少し動かして見る事
- 全身写せる鏡の前で自分によく似合うかたしかめる事。
- 手持の衣服との組合せ（特にブラウス、スカート、セーター類）で無駄のない買物をする。
- 材質や価格、利用目的に合ったものを選ぶ。
- 着用時にはプラス、二割増で着こなすこと。  
（街中で同じ様なものを着ますので、いやだと思ふ方は、ボタン、ベルト、又衿を取りのけたり、小さくなおし、なをアクセサリで変化づけて着ること）
- 縫い方はポケットの作り方を見ます。  
（ポケットは手のかゝる所ですのでポケットが上手に出来ていますと他はきれいに出来ていることです） 以上のこと等に注意して衣生活を豊かにして行きたいと思ひます。（とぐち ふみこ）